

古文ドリル：「侍り・候ふ」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「侍り・候ふ」の正体（2用法）

古文の「侍り」「候ふ」は機能がほぼ同じで、**直前が連用形かどうか**だけで見分けられます。どちらも**丁寧語**（話し手→聞き手への敬意）で、尊敬・謙譲ではありません。

| 用法 | 接続・位置 | 訳 | 例 |
|-----------|------------------------|-----------------|---------------|
| ① 本動詞・丁寧 | 単独 （体言・副詞の後／文末） | あります／おります／ございます | ここに 侍り |
| ② 補助動詞・丁寧 | 連用形 +侍り・候ふ | ～です／～ます | 思ひ 侍り |

「侍り」はう変系（侍ら・侍り・侍り・侍る・侍れ・侍れ）、「候ふ」はハ行四段（候は・候ひ・候ふ・候ふ・候へ・候へ）。文中で「侍る」「候へば」の形でも識別の手順は同じです。

識別の鉄則

- 直前が動詞・形容詞・形容動詞の連用形**（思ひ・うれしく など）→ **補助動詞・丁寧**「～です／～ます」。
- 直前が体言・副詞、または文頭で単独**（ここに・花 など）→ **本動詞・丁寧**「あります／おります」。
- 「て」が挟まっても（書いて侍り）、その前の「書き」が連用形なら**補助動詞**。
- 「侍り・候ふ」は**丁寧語**。尊敬（お～になる）や謙譲（～申し上げる）と混同しない。

🎯 解き方のコツ（試験本番で3秒）

コツ① まず直前が連用形か

- 連用形+侍り・候ふ（思ひ侍り・申し候ふ・うれしく侍り）→ 補助動詞「～です／～ます」。
- 体言・副詞の後で単独（ここに侍り・花侍り）→ 本動詞「あります／おります」。

コツ② 「て」にだまされない

- 「書いて侍り」の「侍り」は、前の「書き」が連用形なので補助動詞。「て」を見て本動詞と決めない。

コツ③ 訳で確かめる

- ・「～です／～ます」と訳せる（補助動詞）か、「ある／いる」を丁寧にした「あります／おります」（本動詞）か。

よくある引っかけ

- ・「侍り・候ふ」は丁寧語。「尊敬」「謙譲」と答えない。
- ・係り結び（ぞ・なむ・こそ）の結びで「侍る・候ふ・侍れ・候へ」になっても用法は変わらない。
- ・「候ふ」は鎌倉以降（平家・武家書状）、「侍り」は平安（源氏・枕草子）に多い。

採点表

各セッションごとに自己採点し、最後に合計を記録してください。

- ・基礎（Q1～Q20）： /20
- ・標準（Q21～Q50）： /30
- ・応用（Q51～Q80）： /30
- ・入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

本動詞（あります／おります）と補助動詞（～です／～ます）を見分ける。

Q1. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

ここに侍り。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（おります） **解説：**直前「ここに」は場所を示す副詞句（連用形ではない）。本動詞で「居り」の丁寧＝「こちらにおります」。丁寧。

Q2. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

思ひ侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「思ひ」は四段「思ふ」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「思います」。丁寧。

Q3. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

申し候ふ。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） 解説：「申し」は四段「申す」連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「申します」。謙讓語に丁寧が重なる形。丁寧。

Q4. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

花侍り。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（あります） 解説：直前「花」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「花がごぞいます」。丁寧。

Q5. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

読み侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） 解説：「読み」は四段「読む」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「読みます」。丁寧。

Q6. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

ここに候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） 解説：直前「ここに」は副詞句（連用形ではない）。本動詞で「居り」の丁寧＝「ここにあります」。丁寧。

Q7. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

うれしく侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） 解説：「うれしく」は形容詞「うれし」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「うれしゅうございます」。丁寧。

Q8. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

人候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説：**直前「人」は体言。単独で「居り」の丁寧＝「人がおります」。丁寧。

Q9. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

書いて侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「書き」は四段「書く」連用形＋接続助詞「て」。連用形（＋て）＋侍りで補助動詞。「書いてあります（書いております）」。「て」だけで本動詞と判断しない。丁寧。

Q10. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

申し上げ候ふ。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「申し上げ」は連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「申し上げます」。丁寧。

Q11. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

宿侍り。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（あります） **解説：**直前「宿」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「宿がございます」。丁寧。

Q12. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

待ち候ふ。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「待ち」は四段「待つ」連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「お待ちします」。丁寧。

Q13. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

かしこに侍り。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（おります） **解説：**直前「かしこに」は場所を示す副詞句。本動詞で「あちらにおります」。丁寧。

Q14. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

知り侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「知り」は四段「知る」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「存じます」。丁寧。

Q15. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御文候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（あります） **解説：**直前「御文」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「お手紙がございます」。丁寧。

Q16. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

あはれに侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「あはれに」は形容動詞「あはれなり」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「しみじみと趣深うございます」。丁寧。

Q17. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御供に候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説：**直前「御供に」は副詞句（連用形ではない）。本動詞で「お供としております（お控えしております）」。

Q18. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

仕うまつり侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「仕うまつり」は四段連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「お仕えます」。丁寧。

Q19. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

ものの音侍り。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（あります） **解説：**直前「音」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「楽の音がございます」。丁寧。

Q20. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

さやうに申し**候ふ**。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「申し」は連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「そのように申します」。丁寧。

【第2部】標準編（Q21～Q50）

侍り・候ふを織り交ぜ、連用形か単独かを確実に見分ける。

Q21. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

かくなむ思ひ**侍る**。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「思ひ」は連用形。連用形＋侍るで補助動詞。係助詞「なむ」を受けて連体形「侍る」で結ぶ。「このように思っております」。丁寧。

Q22. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御使ひぞ**候ふ**。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説：**直前「御使ひ」は体言。単独で「居り」の丁寧。係助詞「ぞ」を受けて連体形「候ふ」で結ぶ。「お使いの者がおります」。丁寧。

Q23. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

見**侍り**。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「見」は上一段「見る」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「拝見します（見ます）」。丁寧。

Q24. 次の傍線部「候へ」を識別せよ。

さ候へば。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（ございます） **解説：**直前「さ」は副詞（連用形ではない）。本動詞「あり」の丁寧で、已然形「候へ」+ば。「そうでございますので」。丁寧。

Q25. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

暮らし侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「暮らし」は四段「暮らす」連用形。連用形+侍りで補助動詞。「過ごしております」。丁寧。

Q26. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御前に候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説：**直前「御前に」は副詞句（連用形ではない）。本動詞で「御前におります（お控えしております）」。

Q27. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

をかしく侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「をかしく」は形容詞「をかし」連用形。連用形+侍りで補助動詞。「趣深うございます」。丁寧。

Q28. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

子ども候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説：**直前「子ども」は体言。単独で「居り」の丁寧＝「子どもがおります」。丁寧。

Q29. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

聞き侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「聞き」は四段「聞く」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「うかがいます（聞きます）」。丁寧。

Q30. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

山に候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説：**直前「山に」は場所を示す副詞句。本動詞で「山におります」。丁寧。

Q31. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

花こそ侍れ。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（あります） **解説：**直前「花」は体言（こそが間に入る）。単独で「あり」の丁寧。係助詞「こそ」を受けて已然形「侍れ」で結ぶ。「花がございます」。丁寧。

Q32. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

持ち候ふ。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「持ち」は四段「持つ」連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「持っております」。丁寧。

Q33. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

めでたく侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「めでたく」は形容詞「めでたし」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「すばらしゅうございます」。丁寧。

Q34. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

ここもとに候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説：**直前「ここもとに」は場所を示す副詞句。本動詞で「このあたりにおります」。丁寧。

Q35. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

仕へ侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「仕へ」は下二段「仕ふ」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「お仕えしております」。丁寧。

Q36. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御返事（かへりごと）候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（あります） **解説：**直前「御返事」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「お返事がございます」。丁寧。

Q37. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

立ち侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「立ち」は四段「立つ」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「立っております」。丁寧。

Q38. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御前にぞ候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説：**直前「御前に」は副詞句。本動詞で、係助詞「ぞ」を受けて連体形「候ふ」で結ぶ。「御前におります」。丁寧。

Q39. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

あやしく侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「あやしく」は形容詞「あやし」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「不思議でございます」。丁寧。

Q40. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

馬候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（あります） **解説：**直前「馬」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「馬がございます」。丁寧。

Q41. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

申し侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「申し」は四段「申す」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「申します」。丁寧。

Q42. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

都に候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説：**直前「都に」は場所を示す副詞句。本動詞で「都におります」。丁寧。

Q43. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

思ひ出で侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「思ひ出で」は下二段「思ひ出づ」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「思い出します」。丁寧。

Q44. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御消息（せうそこ）候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（あります） **解説：**直前「御消息」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「お便りがございます」。丁寧。

Q45. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

久しく侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「久しく」は形容詞「久し」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「久しゅうございます（長くなっております）」。丁寧。

Q46. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

出で候ふ。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」(～です／～ます) **解説：**「出で」は下二段「出づ」連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「出ます(外出します)」。丁寧。

Q47. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

庭に侍り。

答え：本動詞・丁寧「侍り」(おります) **解説：**直前「庭に」は場所を示す副詞句。本動詞で「庭におります」。丁寧。

Q48. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

たより候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」(あります) **解説：**直前「たより」は体言(手段・縁)。単独で「あり」の丁寧＝「機会(つて)がございます」。丁寧。

Q49. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

よく知り侍る人。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」(～です／～ます) **解説：**「知り」は連用形。連用形＋侍る(連体形)で補助動詞。「よく知っております人」。丁寧。

Q50. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御前に人々候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」(おります) **解説：**直前「人々」は体言。単独で「居り」の丁寧＝「御前に人々がおります(お控えしております)」。丁寧。

【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

係り結び、「て」が挟まる形、候へば、紛らわしい文脈を見分ける。

Q51. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

書いて侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「書き」は四段連用形＋「て」。その前が連用形なので補助動詞。「書いてあります」。「て」を見て本動詞と判断しない。丁寧。

Q52. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

文書きて侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「書き」は連用形（＋て）。補助動詞「書いてあります」。直前「文」は「書き」の目的語で、「侍り」の直前は連用形相当。丁寧。

Q53. 次の傍線部「候へ」を識別せよ。

申し候へば。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「申し」は連用形。連用形＋候へ（已然形）＋ば。補助動詞「申しますので」。丁寧。

Q54. 次の傍線部「侍れ」を識別せよ。

心ちあしく侍れば。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「あしく」は形容詞「あし」連用形。連用形＋侍れ（已然形）＋ば。補助動詞「気分が悪うございますので」。丁寧。

Q55. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

弓矢候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（あります） **解説：**直前「弓矢」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「弓矢がございます」。丁寧。

Q56. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

何事か侍る。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（あります／おります） **解説：**直前「何事か」は体言＋係助詞「か」。本動詞「あり」の丁寧で、「か」を受けて連体形「侍る」。「何事がございますか」。丁寧。

Q57. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

参り候ふ。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「参り」は四段「参る」連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「参ります」。謙讓語に丁寧が重なる。丁寧。

Q58. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

ゆかしく侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「ゆかしく」は形容詞「ゆかし」連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「心ひかれます」。丁寧。

Q59. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

いくさ候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（あります） **解説：**直前「いくさ」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「戦がございます」。軍記物に多い形。丁寧。

Q60. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

をかしう侍るものかな。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「をかしう」は形容詞「をかし」連用形（ウ音便）。連用形＋侍る（連体形）で補助動詞。「趣深うございますものよ」。丁寧。

Q61. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

やがて参り候ふべし。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「参り」は連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「すぐに参るつもりでございます」。丁寧。

Q62. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

火侍り。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（あります） **解説：**直前「火」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「火がございます」。丁寧。

Q63. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

げに候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（さようでございます） **解説：**直前「げに」は副詞「なるほど・本当に」。本動詞「あり」の丁寧＝「なるほど、さようでございます」。応答の表現。丁寧。

Q64. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

この程（ほど）に侍る。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（おります） **解説：**直前「程に」は範囲を示す副詞句。本動詞で「このあたりにおります」。丁寧。

Q65. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

思ひ候ふやうは。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「思ひ」は連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「思っております様子は」。丁寧。

Q66. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

あまた侍り。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（あります／おります） **解説：**直前「あまた」は数量の副詞。本動詞で「たくさんございます（おります）」。

Q67. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

召し候ふ。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「召し」は四段「召す」連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「お呼びします（お召しになります）」。丁寧。

Q68. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

いとよく侍る。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「よく」は形容詞「よし」連用形。連用形＋侍るで補助動詞。「たいそう結構でございます」。丁寧。

Q69. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御文を持ちて候ふ。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「持ち」は四段連用形（＋て）。その前が連用形なので補助動詞。「お手紙を持っております」。丁寧。

Q70. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

われも侍り。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（おります） **解説：**直前「われ」は体言（＋係助詞も）。本動詞で「私もおります」。丁寧。

Q71. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御伴（とも）に参り候ふ。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「参り」は連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「お供に参ります」。丁寧。

Q72. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

しか侍る。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（さようでございます） **解説：**直前「しか」は副詞「そのように」。本動詞「あり」の丁寧＝「さようでございます」。応答の定型。丁寧。

Q73. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

うけたまはり**候ふ**。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「うけたまはり」は四段「承る」連用形。連用形+候ふで補助動詞。「承ります」。丁寧。

Q74. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

御琴の音**侍り**。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（あります） **解説：**直前「音」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「お琴の音がございます」。丁寧。

Q75. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

静かに**候ふ**。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「静かに」は形容動詞「静かなり」連用形。連用形+候ふで補助動詞。「静かでございます」。丁寧。

Q76. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

ある所に**侍り**。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（おります） **解説：**直前「所に」は場所を示す副詞句。本動詞で「ある所におります」。丁寧。

Q77. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

急ぎ**候ふ**。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「急ぎ」は四段「急ぐ」連用形。連用形+候ふで補助動詞。「急いでおります」。丁寧。

Q78. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

いかに**侍る**べき。

答え：本動詞・丁寧「侍り」（ございます） **解説：**直前「いかに」は副詞。本動詞「あり」の丁寧で、「どのようにございますべきか（どうすべきでございましょうか）」。丁寧。

Q79. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

思ひ参らせ**候ふ**。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「参らせ」は連用形（思ひ参らす）。連用形＋候ふで補助動詞。「お思い申し上げております」。謙譲＋丁寧。丁寧。

Q80. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

あからさまに出でて**侍り**。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「出で」は下二段連用形（＋て）。その前が連用形なので補助動詞。「ちょっと外出しております」。丁寧。

【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

文脈・係り結び・出典を総合して、本動詞（あります）と補助動詞（～です）を判別する。

Q81. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

いとうれしと思ひ**侍る**。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説：**「思ひ」は四段「思ふ」連用形。連用形＋侍る（連体形）で補助動詞。「たいそううれしく思っております」。丁寧。

Q82. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

一の谷の軍（いくさ）破れ**候ひぬ**。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） **解説：**「破れ」は下二段「破る」連用形。連用形＋候ひ＋完了「ぬ」。補助動詞「敗れてしまいました」。平家物語の武家口調。丁寧。

Q83. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

をかしき事も**侍り**き。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説**：「侍り」＋過去「き」。ここは「をかしき事も（あり）ました」で、存在を丁寧に述べつつ過去を添える補助動詞的用法。「趣深いこともございました」。丁寧。

Q84. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

ここに**候ふ**は、何者ぞ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説**：直前「ここに」は副詞句。本動詞で「ここにおりますのは、何者か」。丁寧。

Q85. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

鬼ある所と**なむ**人申し**侍る**。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説**：「申し」は連用形。連用形＋侍る（連体形）で補助動詞。係助詞「なむ」を受けて連体形で結ぶ。「鬼がいる所だと人が申ししております」。丁寧。

Q86. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

矢七つ八つ**候ふ**。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（あります） **解説**：直前「矢七つ八つ」は体言（数量）。単独で「あり」の丁寧＝「矢が七つ八つございます」。軍記物の形。丁寧。

Q87. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

いみじう恐ろしく**侍り**き。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説**：「恐ろしく」は形容詞連用形。連用形＋侍り＋過去「き」。補助動詞「たいそう恐ろしゅうございました」。丁寧。

Q88. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

参り候ふべく候ふ。

答え：(後の「候ふ」) 補助動詞・丁寧「候ふ」(～です／～ます) **解説：**傍線部は文末の「候ふ」。「べく」(当然「べし」連用形) + 候ふで補助動詞。「参上するつもりでございます」。武家書状の重ね敬語。丁寧。

Q89. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

さる事侍りき。

答え：本動詞・丁寧「侍り」(ありました) **解説：**直前「さる事」は体言。単独で「あり」の丁寧 + 過去「き」。「そのような事がございました」。丁寧。

Q90. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

しか候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」(さようでございます) **解説：**直前「しか」は副詞「そのように」。本動詞「あり」の丁寧 = 「さようでございます」。応答の定型。丁寧。

Q91. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

月をあはれと見侍りき。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」(～です／～ます) **解説：**「見」は上一段連用形。連用形 + 侍り + 過去「き」。補助動詞「月をしみじみと見ました」。丁寧。

Q92. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御所に候ふ人々。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」(おります) **解説：**直前「御所に」は副詞句。本動詞(連体形)で「御所におります人々(伺候する人々)」。丁寧。

Q93. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

かやうの事をのみ思ひ侍る。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） 解説：「思ひ」は連用形。連用形＋侍るで補助動詞。「このような事ばかりを思っております」。丁寧。

Q94. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

弓も候ふ、矢も候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（あります） 解説：直前「弓も」は体言（＋係助詞も）。単独で「あり」の丁寧＝「弓もございます、矢もございます」。丁寧。

Q95. 次の傍線部「侍り」を識別せよ。

恥づかしく侍り。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） 解説：「恥づかしく」は形容詞連用形。連用形＋侍りで補助動詞。「きまり悪うございます」。丁寧。

Q96. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

ただ今参り候ふ。

答え：補助動詞・丁寧「候ふ」（～です／～ます） 解説：「参り」は連用形。連用形＋候ふで補助動詞。「ただ今参ります」。丁寧。

Q97. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

田舎に住み侍るほどに。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） 解説：「住み」は四段連用形。連用形＋侍る（連体形）で補助動詞。「田舎に住んでおりますうちに」。丁寧。

Q98. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

この所に城候ふ。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（あります） 解説：直前「城」は体言。単独で「あり」の丁寧＝「この所に城がございます」。丁寧。

Q99. 次の傍線部「侍る」を識別せよ。

いとあはれにも**侍る**かな。

答え：補助動詞・丁寧「侍り」（～です／～ます） **解説**：「あはれに」は形容動詞連用形。連用形＋侍る（連体形）で補助動詞。「たいそうしみじみと趣深うございますなあ」。丁寧。

Q100. 次の傍線部「候ふ」を識別せよ。

御館（やかた）に**候ふ**。

答え：本動詞・丁寧「候ふ」（おります） **解説**：直前「御館に」は場所を示す副詞句。本動詞で「お館におります（伺候しております）」。

採点振り返り

おつかれさまでした。間違えた問題は、「侍り・候ふ」の**直前の語**をもう一度確認しましょう。

- **本動詞・丁寧**「**あります／おります**」…単独（**体言・副詞**の後／文末）。「ここに侍り」「花侍り」。
- **補助動詞・丁寧**「**～です／～ます**」…**連用形**＋侍り・候ふ（連用形＋「て」も含む）。「思ひ侍り」「うれしく侍り」「書いて侍り」。
- どちらも**丁寧語**（聞き手への敬意）。尊敬・謙譲と混同しない。
- 係り結び（ぞ・なむ・こそ・か）で「侍る・侍れ・候ふ・候へ」になっても用法は同じ。

直前が連用形か否か——これだけで一瞬で見分けられます。丁寧語の判定は会話文の読解に直結するので確実にしましょう。

この問題集は無料です。古文の他の敬語（給ふ・参る・奉る）のドリルや、文法解説とあわせてご活用ください。

誰でも古典塾 (<https://kotennosensei.com>) / 個別指導塾フィット・中本裕太